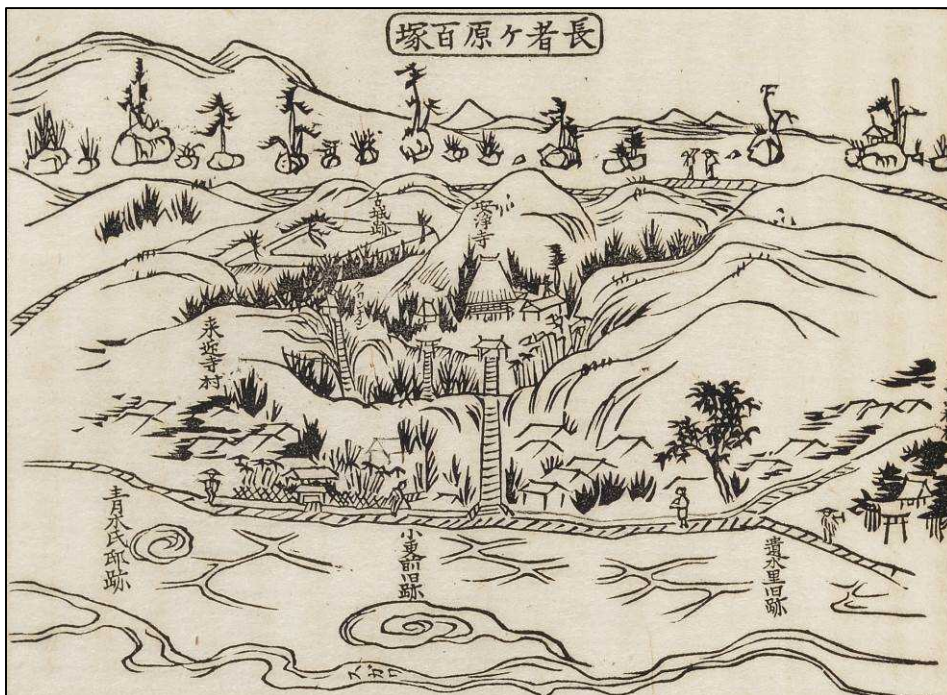


長岡 あーかいぶ 第 15 号

編集・発行／長岡市立中央図書館文書資料室

http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=134

郷土史研究の先駆け『温古の栞』を探る 長岡市史双書No.56『近代長岡の雑誌(2)』発行



▲「来迎寺の古城跡」挿絵（『温古の栞』八篇掲載）

雑誌『温古の栞』とは？

研究団体「温古談話会」の月刊誌。温古談話会の会員は、旧藩士、地主層、経済人、学識経験者などから構成されています。主宰の大平与文次・覚太郎親子を中心に、調査研究・情報収集の成果を、神社仏閣、古城跡、名所旧跡、物の起原、名家の去就、偉人の伝などの記事にまとめました。新潟県内の郷土史研究に影響を与え、これまでに大正 6 年 (1917) (温古之栞刊行会)、昭和 48 年 (1973) (野島出版)、同 52 年 (歴史図書社) の三度にわたって復刻されました。

長岡市史双書は、文書資料室が刊行する歴史資料集です。平成 28 年度の新刊は、No.56『近代長岡の雑誌(2)』『温古の栞』と大平与文次・温古談話会』です。明治・大正・昭和戦前期発行の文芸雑誌 20 誌、その他の逐次刊行物 27 誌を紹介したNo.28『近代長岡の雑誌』(平成 6 年発行)の続刊になります。

『温古の栞』(おんこのしおり)は、明治 23 年 (1890) から 26 年まで、36 篇にわたり発行された月刊誌です。三島郡浦村(長岡市越路地域)出身の大平与文次(おおだいら・よぶんじ)を中心に、「温古学」を提唱する郷土研究団体・温古談話会の会員が、地域の歴史・民俗・文化財などに関する記事を寄稿。近代長岡の郷土史研究者たちが、地域をどのように研究し、その歴史・文化を後世に伝えていこうとしたのかを知ることができます。『温古の栞』は、北越戊辰戦争から復興を遂げ、近代化を進めていく長岡を舞台に、郷土史研究活動を展開した人びとの記録でもあるのです。(田中洋史)

～長岡市史双書No.56の特色～

今回の長岡市史双書は、これまでに発行・復刻された『温古の栞』を横断的に検索できるページ対照表を兼ねた総目次をはじめ、大平与文次と温古談話会の活動がわかる関係年表、『温古の栞』記事に登場する地名の索引など、長岡市及び新潟県の郷土史研究に役立つ内容が満載です。温古談話会の会員規則や名簿、関係する「新潟新聞」記事の抄出も併せて掲載し、明治期の新潟県における史学史の黎明や、活発な文化活動の息吹を感じることができます。

また、『温古の栞』最大の魅力である、玉石混交・虚々実々の幅広い記事の中から、長岡市域関係の「名所旧跡の部」「古城跡の部」を抄録しました。使って便利、読んでもおもしろい史料集です。(林朋子)

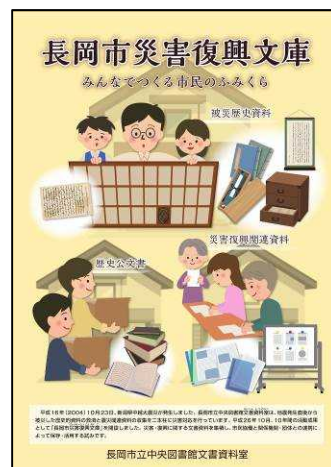


▲『温古の栞』初篇表紙

シリーズ 災害と文書資料室(10)
「長岡市災害復興文庫」のあゆみ

「長岡市災害復興文庫」は、長岡市が保存する災害に関する歴史資料の集大成です。被災歴史資料・災害復興関連資料・歴史公文書を中心に、郷土の歴史資料を保存・活用することを目的に編成しています。

年度	月 日	出 来 事
平成 26 年度	10 月 21 日	中越大震災 10 周年企画展「災害と復興をかたりつぐ」開催 「長岡市災害復興文庫」開設 国立国会図書館 東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」(以下「ひなぎく」とデータ連携
	3 月 31 日	『リレー講演会「災害史に学ぶ」記録誌』発行
平成 27 年度	7 月 29 日	仙台市にて、国立国会図書館主催「東日本大震災に関する書類・写真・動画の整理・保存講習会～被災支援活動の経験・ノウハウを活かすために～」で報告
	10 月	長岡市災害復興文庫展 2015「長岡市資料整理ボランティア 10 年のあゆみ」を開催
	10 月 23 日	「ひなぎく」に長岡市立阪之上小学校の被災状況写真などを追加
	2 月 22 日	新潟大学と連携、矢田俊文・文書資料室編『新潟県中越地震・東日本大震災と災害史研究・史料保存ー長岡市災害復興文庫を中心にー』を発行
	2 月 23 日	南相馬市立中央図書館(福島県)にて、連携展示「南相馬と長岡～絆の記憶と記録」を開催
平成 28 年度	3 月 11 日	「ひなぎく」に長岡市内の小学校 13 校・中学校 6 校の被害状況写真を追加
	4 月	熊本地震被災地に派遣される市職員に『震災避難所の史料 新潟県中越地震・東日本大震災』を配布
	6 月 27 日	福島市にて、国立国会図書館主催「東日本大震災に関する書類・写真・動画の整理・保存講習会～震災の記録・証言を将来に活かすために～」で報告
	10 月 13 日	長岡市災害復興文庫展 2016「長岡と福島・南相馬～絆の記憶と記録～」を開催
	10 月 21 日	「ひなぎく」に長岡市立山本中学校被災状況写真などを追加
	10 月 22 日	シンポジウム「東日本大震災と熊本地震～中越大震災 12 年目のメッセージ～」を開催
	11 月 8 日	横浜市にて、「第 18 回図書館総合展」に出展。リーフレットを作成し、約 900 部を配布
	3 月	平成 28 年度引き継ぎの歴史公文書の中から災害・復興に関する資料 33 箱を選別
3 月	南相馬市立中央図書館にて、連携展示「長岡市民からのメッセージ～南相馬市の復興に寄せて～」を開催	



▲図書館総合展で配布したリーフレット



▲当室に保管している資料



▲災害に関する歴史公文書

国立国会図書館とのデータ連携、講習会や展示会での資料活用、被災地での図録活用などの実績の他に、調査相談や卒業論文作成のための参考資料として、市民や学生の皆さんに利用していただくことができます。また、図書館総合展に出展した反響は大きく、これらの取り組みに関する全国からの視察が増えました。

文書資料室ではこれからも、災害復興文庫の収集・保存・活用を連動させ、幅広く利用できる歴史資料群として育てていきます。新たな活用法のアイデアなどがありましたら、是非お聞かせ下さい。

(下玉利紀子・永井桃代)



▲南相馬市立中央図書館に展示されたメッセージ

甲野 泰造

生年不詳～1908(明治 41)

明治 30 年 (1897)、呉服町の柿川沿いに「甲野 (この) 病院」が開院した。院長は甲野泰造(たいぞう)。院長・外科医長として勤めた長岡病院を辞し、ここに開業したのである。柿川を越えた中島に病棟を建て、彼は毎日橋を渡って往診したという。3 年後に新築した建物は、ガラス張りの手術室や、洗浄可能なコンクリートの床など、長岡病院をしのぐ設備を備えていたと当時の新聞は伝えている。



▲明治 33 年 甲野病院職員一同
(『ぼん・じゅへる』昭和 57 年 6 月号より転載)

まず、泰造の家族について少し触れておきたい。

甲野 良悦 泰造の父・良悦(りょうえつ)は、古志郡滝谷村(現長岡市滝谷町)の出身である。16 歳で江戸へ出て、幕府御目見医師の磯貝秀庵門下で医学を学ぶ。25 歳で帰郷、呉服町で眼科を開業した。町医者ながら腕を見込まれ、長岡藩家老稲垣家奥方の角膜疾患治療に成功した逸話が残る。

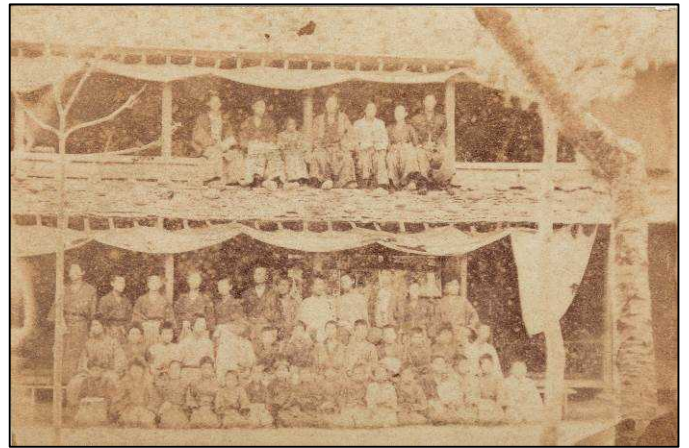
甲野 棊 泰造の兄・棊(たすく)は、安政 2 年(1855)に良悦の長男として生まれた。憲法起草にもかかわった法制学者・渡辺廉吉は竹馬の友である。明治 5 年(1872)に上京しドイツ語を学び、翌年第一大学医学校(東大医学部前身)に入学。同 16 年に東大助教授となり、47 歳で教授となるまで、眼科主任として教授を助けた。明治 33 年からは宮内省侍医を兼任し、済生学舎での眼科講義や、日本眼科医師会などの指導にも携わった。大正 7 年(1918)に侍医を辞任すると、日本橋区薬研堀に甲野眼科医院を開業。患者からの信頼も厚く、医院は隆盛を極めたと伝えられている。

◇ ◇ ◇

甲野泰造は良悦の二男である。長岡市医師会報『ぼん・じゅへる』によれば、泰造は明治 22 年に長岡病院長として迎えられ、後に私立甲野病院を開院し「長岡の医家の先駆者」「東大卒の医学士で神様のような存在」と称賛されていたというが、なぜかその生涯を記したものはほとんど残っていない。眼科学の泰斗として知られる兄の棊とは対照的である。以下、文書資

料室所蔵「甲野家文書」を精査しながら、彼の足跡をたどってみたい。

泰造と棊はともに西軽塾に学ぶ。西軽塾とは、江戸の昌平黌に学んだ遠藤軍平が、万延元年(1860)に三島郡入軽井村(現長岡市寺泊入軽井)に開いた塾である。泰造の入塾年・在学年数は不明だが、甲野家文書の中には「(西軽塾退学時の舎友作文綴)」(明治 10 年)が残る。上京する泰造に「送甲塾泰造君遊学東序」など 20 名の友人がはなむけの詩文を送っている。上京後は東大医学部に入学するが、学生時代を物語る資料は残っていない。



▲西軽塾生一同(「甲野泰造アルバム」より)

長岡病院長在職中、泰造は東大卒業時にはかなわなかった夢を実現させる。三島郡才津村(現長岡市才津地区)の大地主で、当時第六十九国立銀行の取締役をつとめていた遠藤六太郎から 2 万円を借り、ドイツへ留学したのである。院長という責任ある立場を辞し、妻子を残して 30 代半ばで渡欧するには、余程の勇氣と決断を要したことだろう。彼はベルリンから長岡へ、まめに手紙を送った。妻や幼い息子たちへの思いや、長岡病院への気遣い、帰国後の開業への夢などを綴った泰造の書簡が数多く残されている。

帰国後、泰造は長岡病院外科医長に復帰する。やがて開業し、私立長岡医学校の設立にも尽力した。ところが、病院の経営も順風満帆だった明治 41 年、上京中に 40 代の若さで急死した。二人の息子は長岡中学在学中であった。

開業の夢をかなえてわずか 10 年余。泰造の死を悼む多数の弔電や弔辞などが残されている。後に長男の亮太は貿易の仕事に就き長岡を離れ、弟の卓爾は跡を継ぐべく東大医学部へ進んだが、志半ばで夭折した。
(桜井奈穂子)

【主な参考文献】

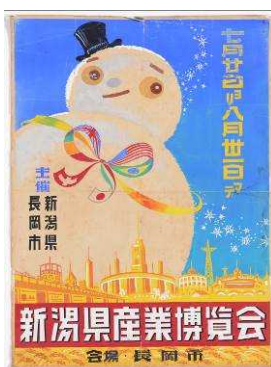
- ・甲野棊『龍谷会』刊行年不明
- ・結城伴造『長岡の教育百年』昭和 44 年
- ・長岡市医師会『長岡市医師会史』平成 2 年
- ・同『ぼん・じゅへる』昭和 55 年 9 月号ほか
- ・三国政吉・新潟大学眼科同窓会

『日本眼科と新潟』昭和 47 年

《新たに公開した所蔵資料一覧》※寄贈・寄託順。保管場所の都合等で当日閲覧できない資料もあります。

- ・長岡市民劇場資料（現代、487点）
 - ・中之島村耕地整理資料（現代、20点）
 - ・城内町二丁目町内会資料（近・現代、7点）
 - ・箆袋コレクション（現代、9点）
 - ・まちの案内人太刀川喜三コレクション（現代、36点）
 - ・山岸家明治・大正教科書（近代、62点）
 - ・関東大震災写真帳（近代、1点）
 - ・仲村達也撮影写真資料（現代、16点）
 - ・仏画掛軸ほか（現代、1点）
 - ・古志郡十日町校・片田校蔵書（近代、45点）
 - ・金春流謡曲大正本ほか（近・現代、65点）
 - ・川上勇吉・勇蔵書（近代、124点）
 - ・明治・大正・昭和 교육關係図書（近・現代、146点）
 - ・表町若月写真店資料（現代、424点）
 - ・株式会社長岡米穀株式取引所資料（近代、1点）
 - ・長岡市史編さん関係新聞資料（近・現代、33点）
 - ・古志郡鼠嶋村庄屋中村家文書(追加)
(近・現代、543点)
 - ・『御大礼記念写真帖』ほか（近代、4点）
 - ・東山油田資料（近代、647点）
 - ・丸山一義撮影写真資料（現代、214点）
 - ・マッチラベルコレクション（現代、77点）
 - ・川合郷々土資料（現代、3点）
 - ・北魚沼郡牛ヶ嶋村文書（近代、24点）
 - ・三島郡上岩井村文書（近代、17点）
 - ・新潟県産業博覧会ポスター（現代、3点）
- ⇒

- ・『互尊独報』『留影鏡』ほか（近代、21点）
 - ・三島郡王寺川村山田家文書（近・現代、421点）
 - ・三島郡宮本村松本家文書（近・現代、3618点）
 - ・自習蔵書センター蔵書（現代、9点）
 - ・『日刊ながおか』（現代、62点）
- ※長岡市立中央図書館移管文書追加分
- ・長岡市渡里町三笠家文書(追加)（近代、1点）
 - ・和宮関係文書（近世、2点）
 - ・南魚沼郡浦佐村関家文書（近世、422点）
 - ・資治通鑑（近代、1点）
 - ・思出艸（近代、1点）
 - ・甲野家文書(追加)（近代、6点）
 - ・内藤賢誠旅行日記（近代、1点）
 - ・長松亭所蔵図面（近世、1点）
 - ・『支那事変出征記念写真帳』（近代、1点）
 - ・児童向け映画フィルム（近代、2点）
- (平成29年3月末現在)



●史料保存こぼれ話

文書資料室では、虫やカビから歴史資料を守るために、保存箱に市販の衣類用防虫剤を入れています。普段は箱を開ける際に有効期限を確認し、随時交換していますが、年に一度の蔵書点検期間中には、一斉に交換作業を行います。交換作業は、歴史資料の状態を点検し、空気を通すよい機会です。また、職員にとっては、どんなものが所蔵されているかを再確認する機会にもなっています。(岡田佐輝子)

長岡の歴史を じっくり読んでみませんか

文書資料室では、長岡市史編さん室から業務を引き継ぎ開室して以来、長岡市史双書を毎年刊行しています。その他『長岡市史』、『長岡市史研究』、『長岡の空襲』、『長岡市政100年のあゆみ』、『郷土長岡を創った人びと』などの本を購入することができます。残部僅少の刊行物もありますので、ぜひお早めにお買い求めください。(上原美穂)

《編集後記》機関紙「長岡あーかいぶ」発刊後、読者の皆様から寄せられる様々な反響は、文書資料室のスタッフの励みになっています。平成30年(2018)、文書資料室は開室20周年を迎えます。市民に親しまれる史料保存機関をめざして活動を続けていきます。(田中洋史) / 当室では、古文書解読講座、長岡市史双書を読む会などのイベントも毎年開催しています。準備は大変ですが、受講生の皆さんの笑顔がその苦労を忘れさせてくれます。(林朋子)

平成29年3月31日発行

編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室

スタッフ：田中洋史、桜井奈穂子、岡田佐輝子
下玉利紀子、林朋子、上原美穂
永井桃代

〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町3-1-20
(長岡市立互尊文庫2階)

TEL 0258-36-7832 FAX 0258-37-3754

E-mail: monjo@lib.city.nagaoka.niigata.jp